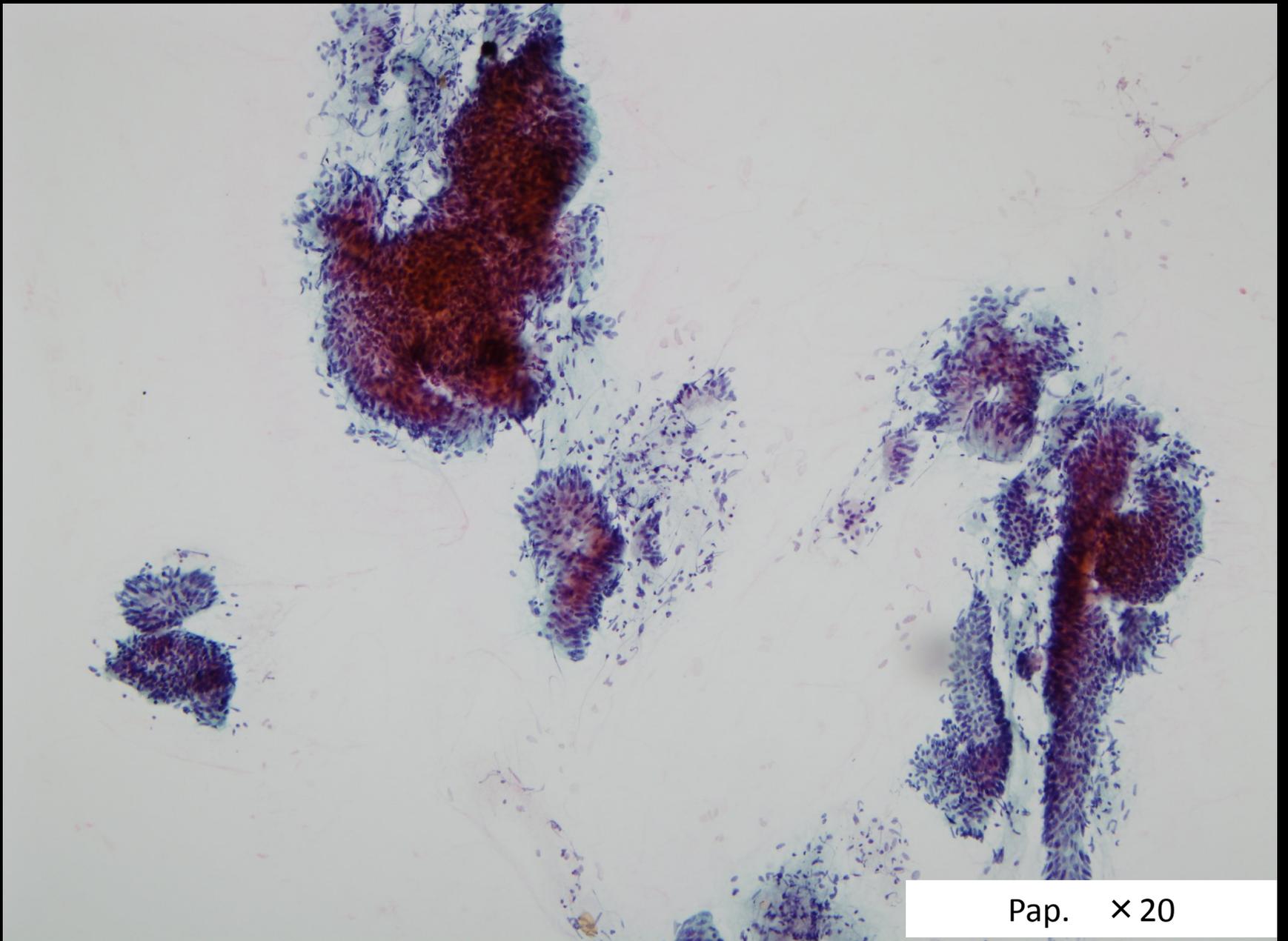
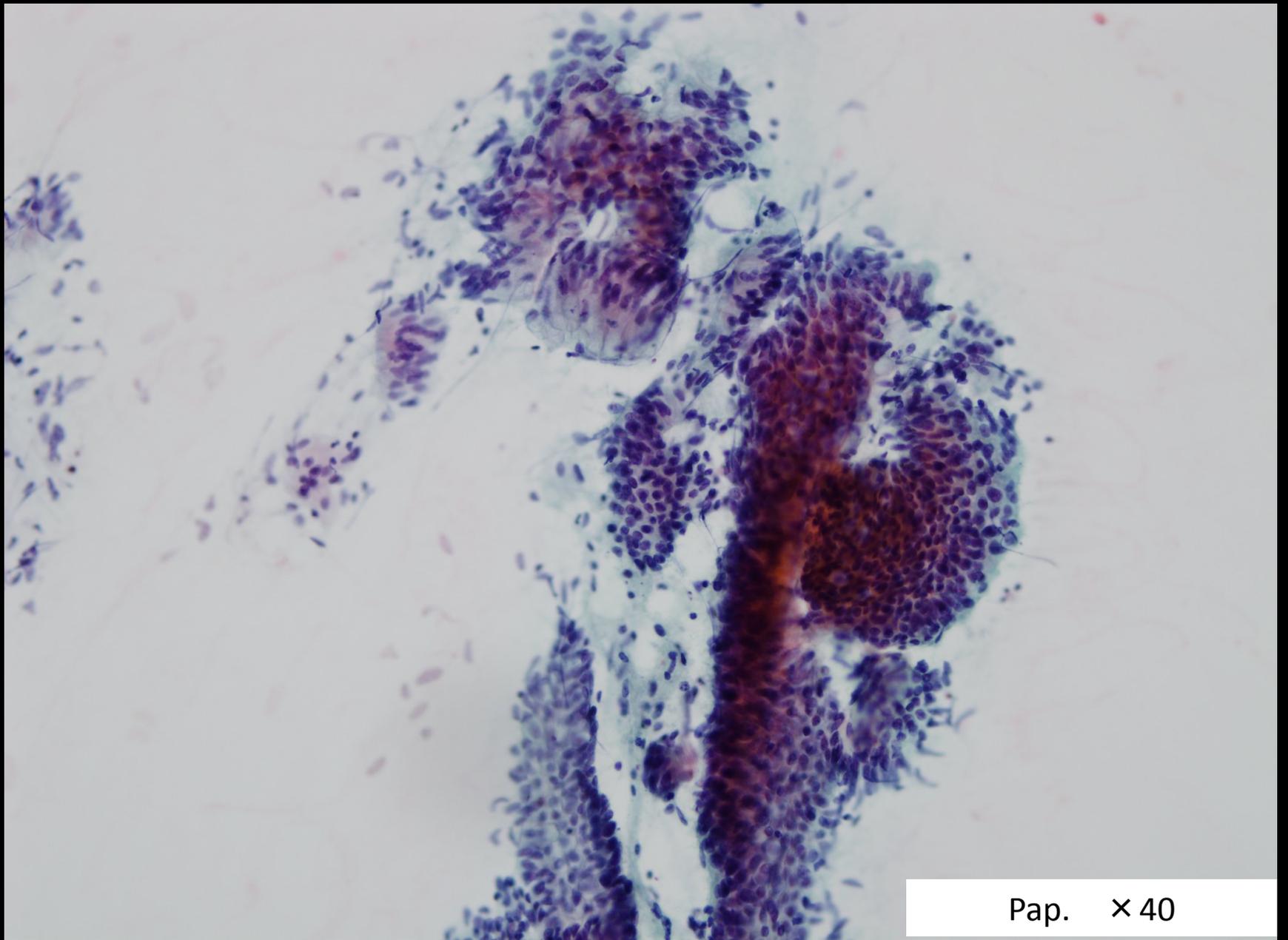


症例3

- 症 例: 50代 男性
- 臨床所見: CFにて直腸にポリープの集族を認めた。
- 検 体: 腫瘍生検捺印

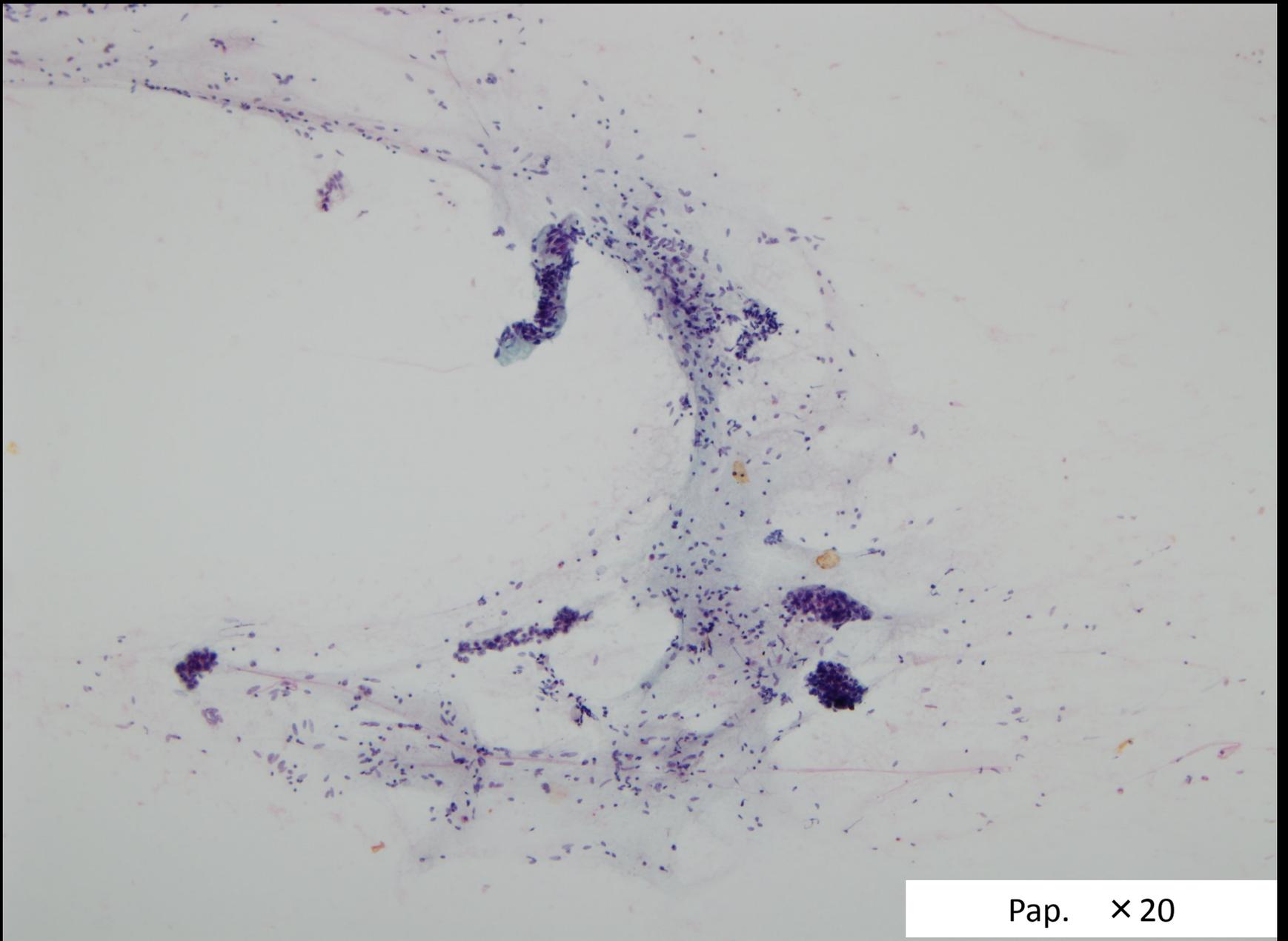


結合性の強い細胞集塊を認める。



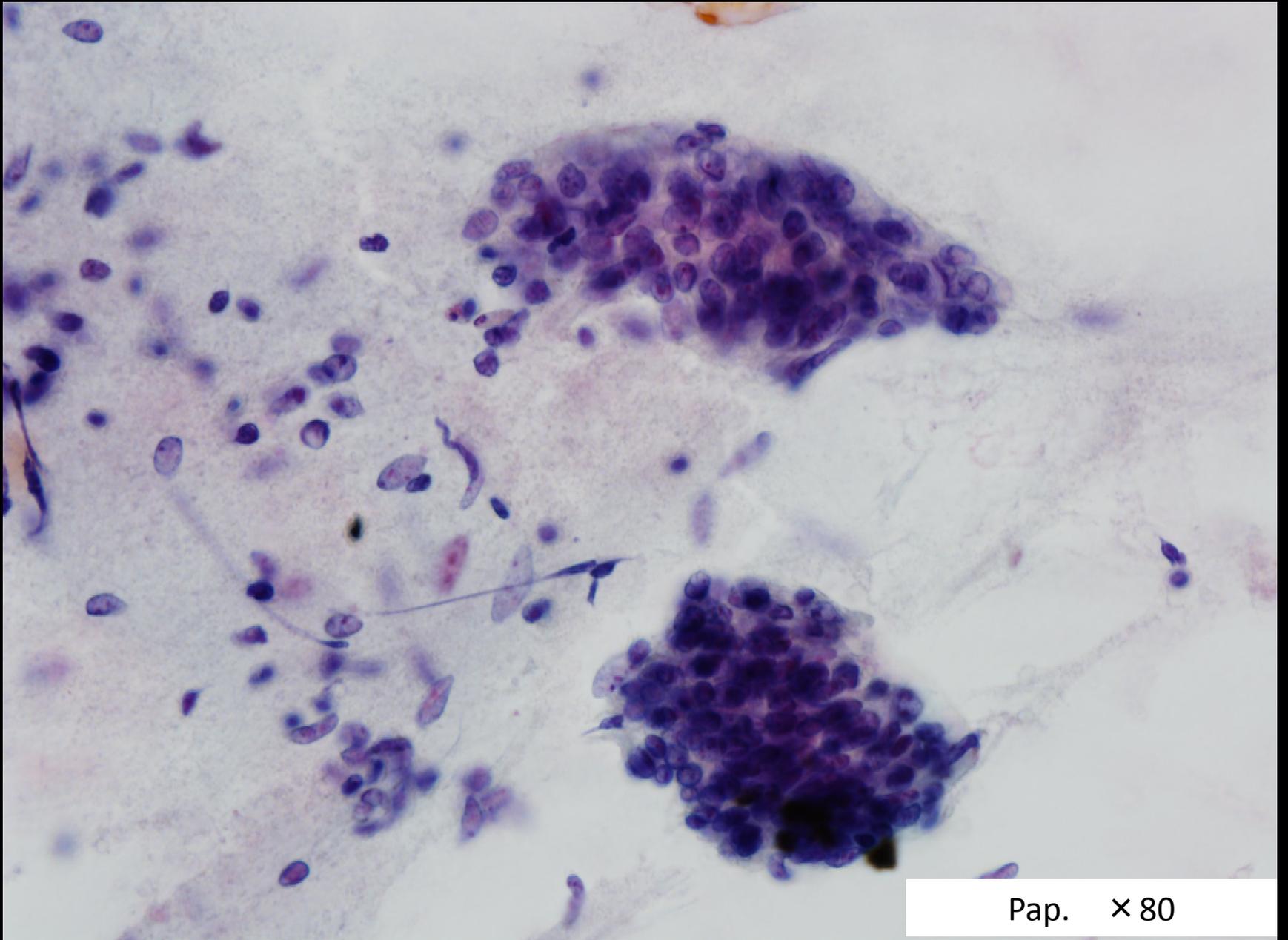
Pap. × 40

高円柱状細胞が軽度の重積を持ち柵状配列として出現しています。
楕円形の核を持ち大きさが均一な細胞が高密度な増殖をしている。



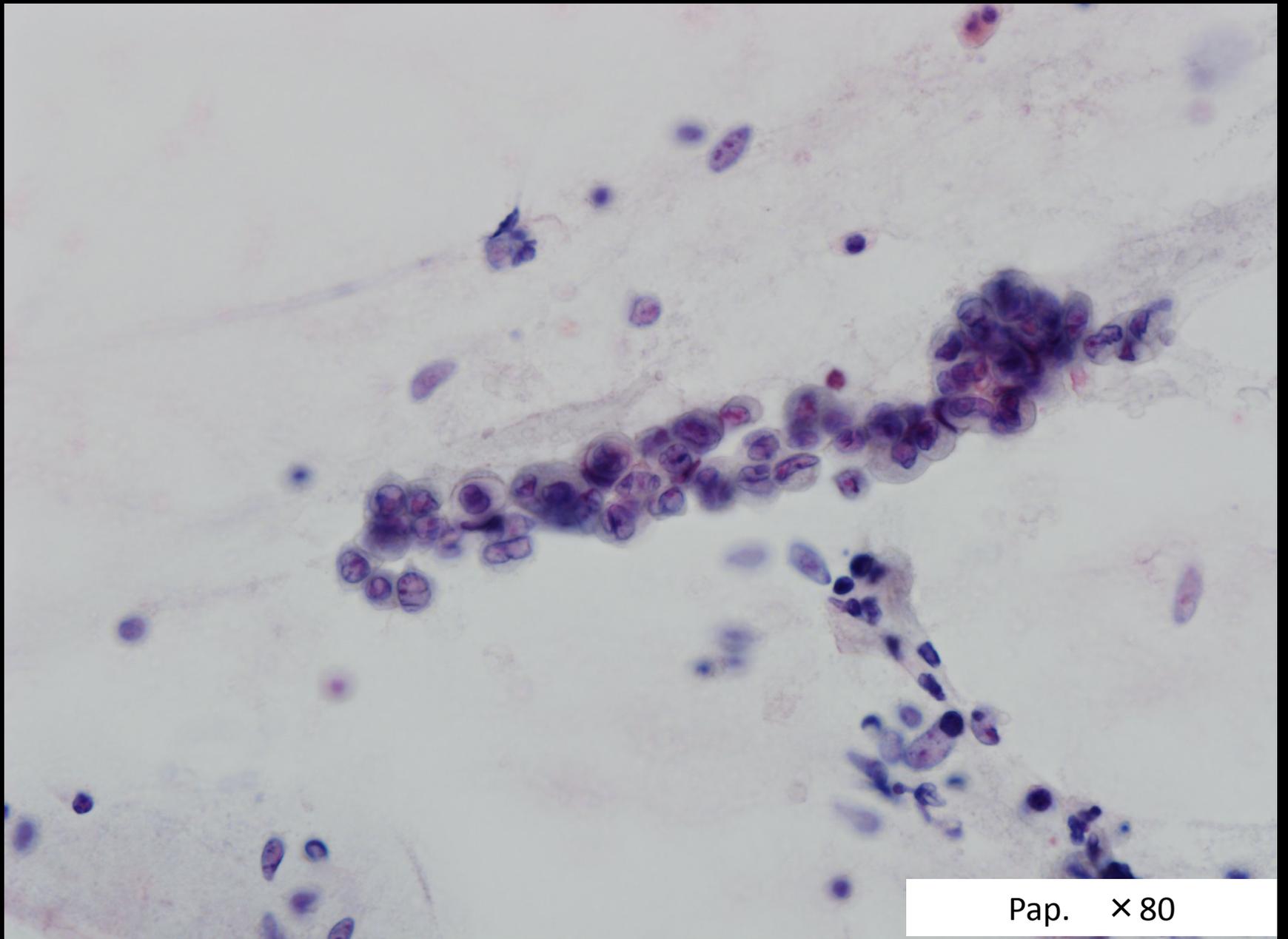
Pap. × 20

疎な結合を持つ集塊を認める



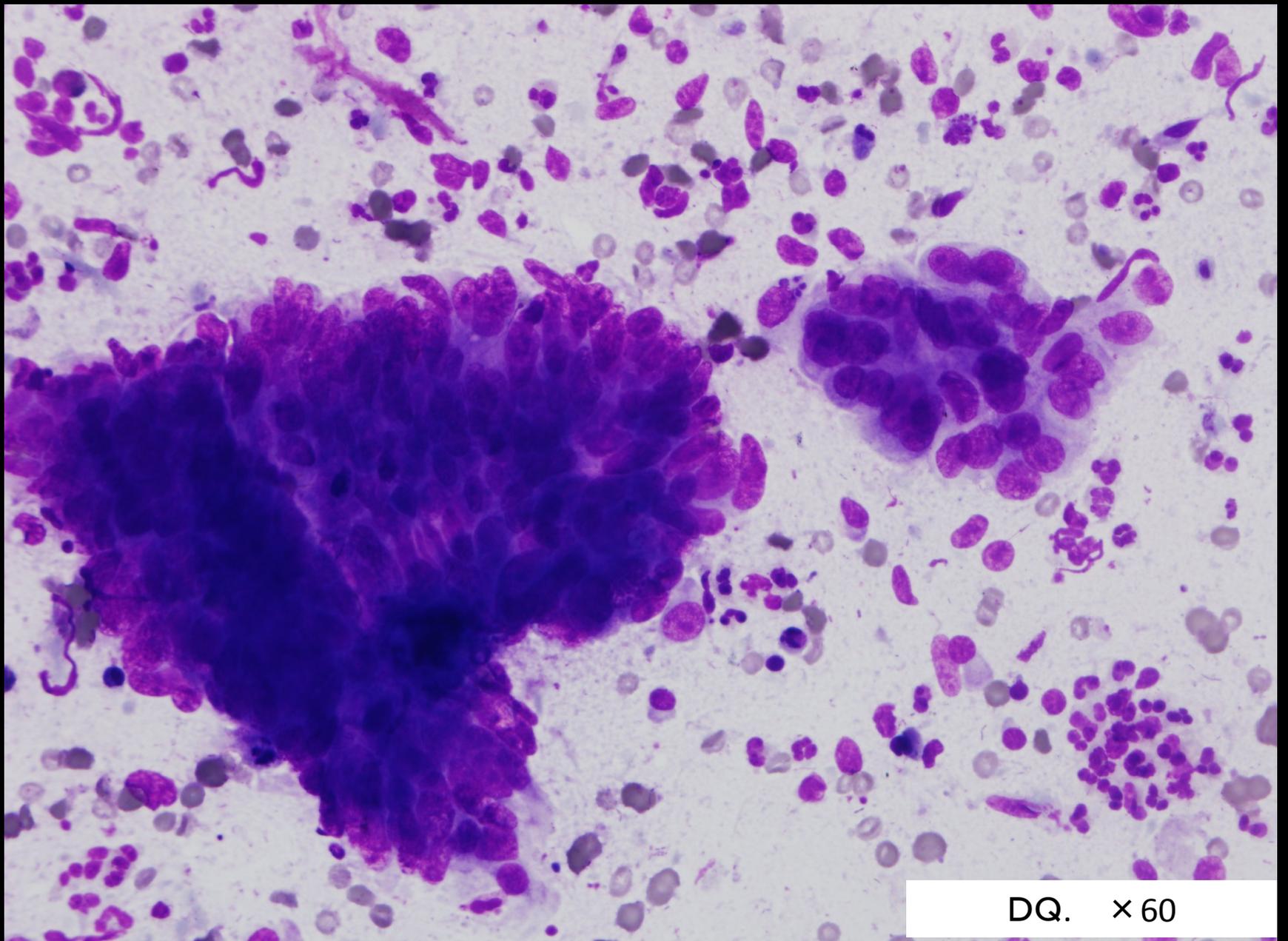
Pap. × 80

N/C比は高く、類円形の核を持つ細胞が不均等な配列で散見される



Pap. × 80

腫瘍細胞の結合性は緩く、核形不整があり
核クロマチンは増量し、明瞭な核小体を認める。



DQ. × 60

長楕円形の核を有し柵状配列を示す集塊(左)と
円形の核を持ち核間距離が不整な細胞集塊(右)を散見する

細胞診断

Carcinoma in adenoma

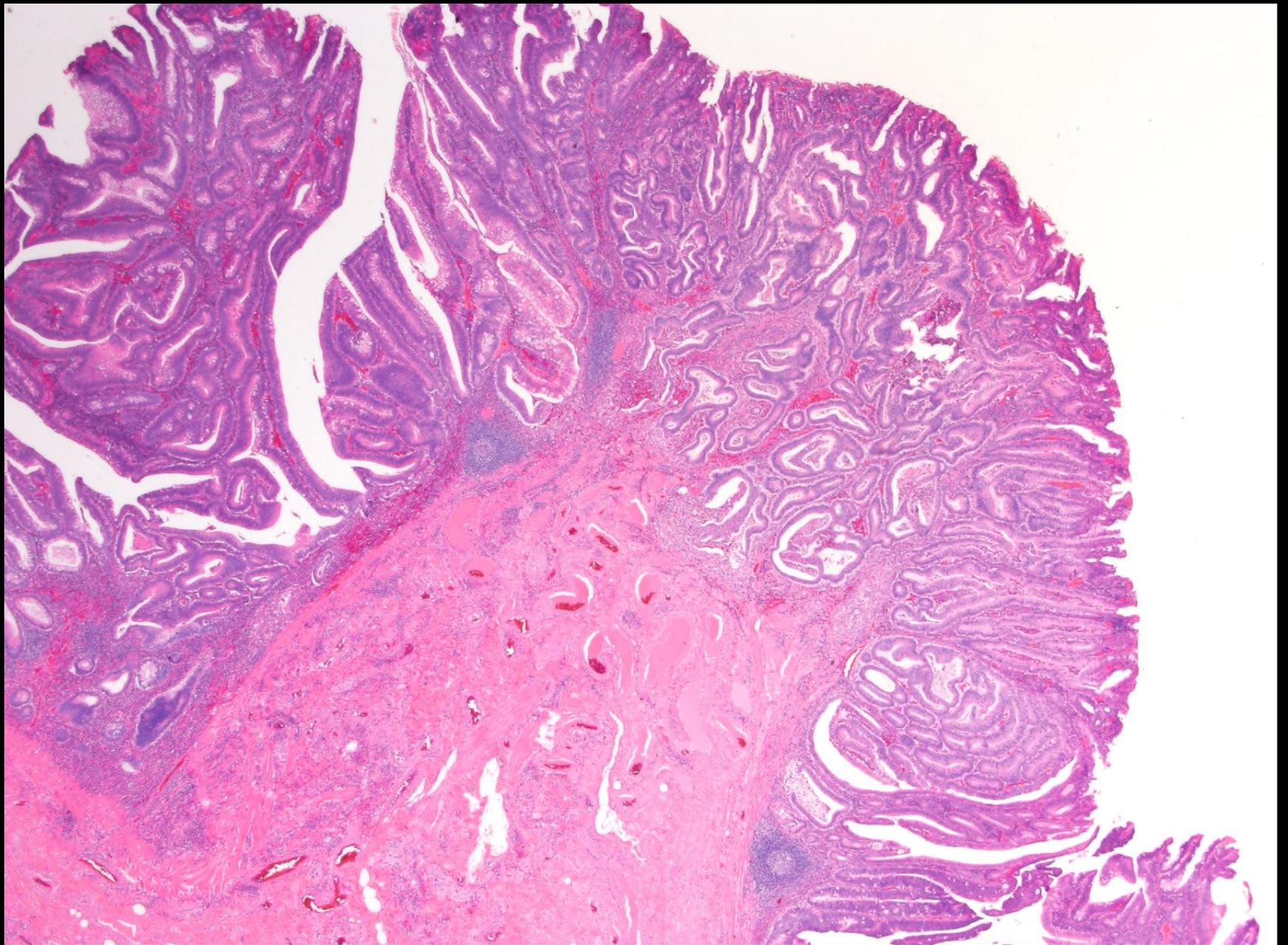
組織診断(生検)

Adenocarcinoma(tub 1)
in tubulovillous adenoma

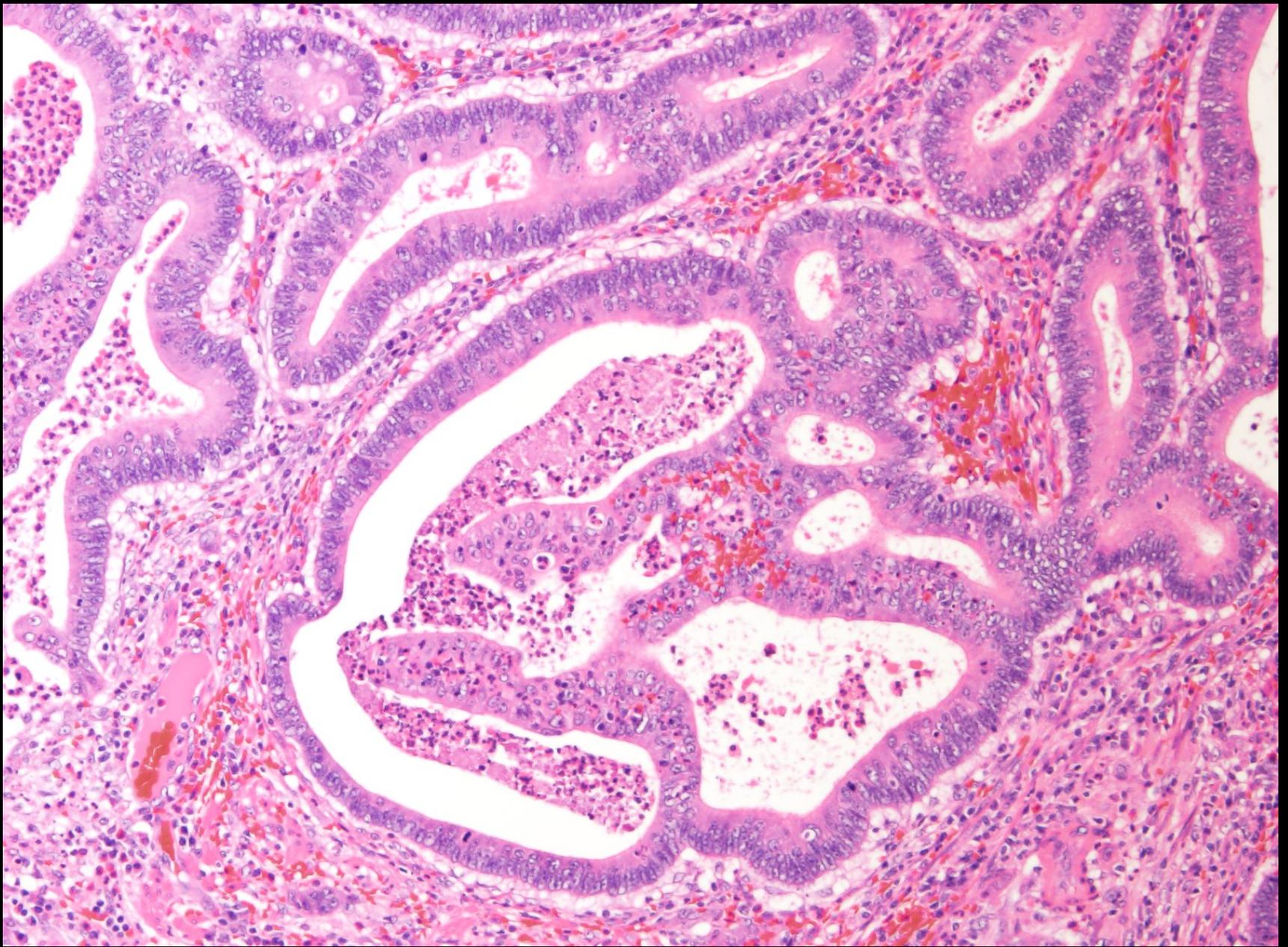




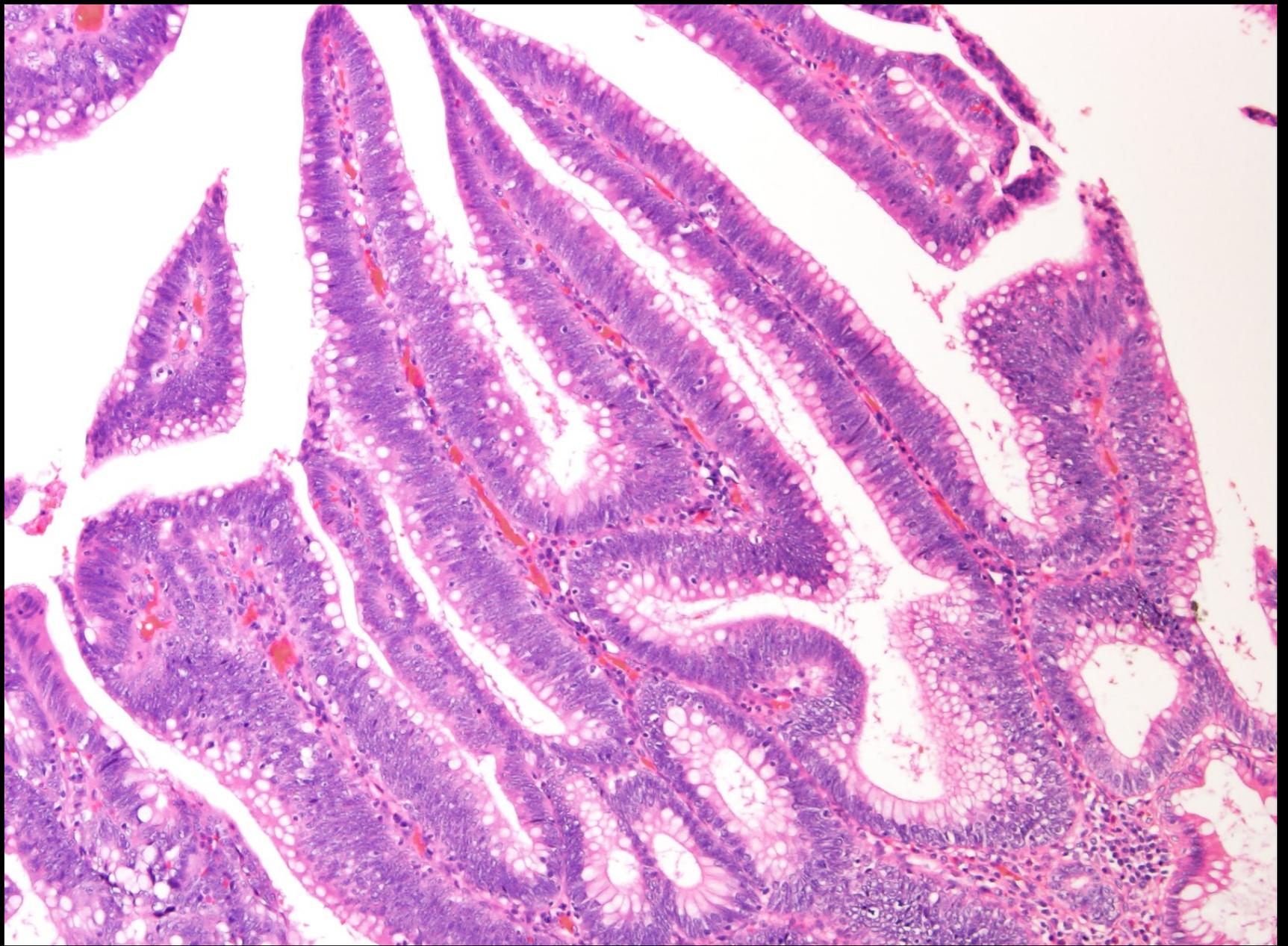
一部増殖形態が異なる部位を認める



分岐と不整拡張をした腺管が増殖している



極性の乱れが認められる



長楕円形核を有する細胞が密に増生している

組織診断

Adenocarcinoma(tub 1 ~ tub2)
in tubulovillous adenoma